

子規記念博物館における購入資料の概要 (正岡子規関連資料等 3点)

松山市では、令和2年5月に正岡子規やその周辺人物に関連する資料3点を購入し、子規記念博物館に収蔵しました。今後、これらの資料についてさらに調査・研究を進め、常設展示室3階特別展示コーナーで一般公開する予定です。

■ 資料の内容と意義

(1) 子規の竹村鍛^{たけむらきと}あて書簡 明治24年9月1日 巻子 1点

帝国大学に在学していた子規が、少年時代からの友人である竹村鍛^{かわひがしへきごと}（子規の門人・河東碧梧桐の兄）にあてた書簡です。帰省していた松山から東京へ戻る旅の途中、大阪から東京の竹村鍛に出したもので、広島や岡山を巡った旅の様子を報告し、東京での荷物の受け取りを依頼しています。また東京に戻る前に京都で「古書探訪」をするつもりであること、鍛にノートを送ってもらったにもかかわらず大学の追試験の勉強が進んでいないこと等にも触れています。

『子規全集』未収録の新出資料であり、子規の帰省旅行の行程や大学の追試験を控えての友人とのやり取り等に関する新しい知見を得ることができ、今後の子規研究上で重要な資料になると思われます。

(2) 夏目漱石の森円月^{もりえんげつ}あて書簡 大正3年1月14日 巻紙 1点

夏目漱石が松山出身の俳人であり子規の友人でもあった森円月^{むらかみせいげつ}にあてた書簡です。漱石が描いた絵を、村上霽月や森円月といった松山出身の俳人たちに贈呈する等のやり取りをしていたことに触れています。

本書簡は『漱石全集』に収録されています。

(3) 夏目漱石の森円月^{もりえんげつ}あて書簡 大正3年1月30日 巻紙 1点

夏目漱石が森円月^{もりえんげつ}にあてた書簡です。漱石が江戸時代の松山の書画人である蔵山、明月、吉田蔵沢らの書画を収集する等、松山ゆかりの美術作品に親しんでいたことが分かります。

本書簡は『漱石全集』に収録されています。

■ 購入した日

令和2年5月29日（金）

■ 購入額

400万円 ※3点一括

■ 購入先

愛媛県内の業者

■ 今後の一般公開について

今回の資料は、いずれも子規やその周辺人物に関連するもので、従来の文献に掲載されていないものも含まれています。今後さらに調査研究を進めた上で、(1) 子規の竹村鍛あて書簡（明治24年9月1日）については開館40周年・子規没後120年を迎える令和3年度に常設展示室3階特別展示コーナーにて、(2) 夏目漱石の森円月あて書簡（大正3年1月14日）及び(3) 夏目漱石の森円月あて書簡（大正3年1月30日）については令和2年10月28日（水）から常設展示室3階特別展示コーナー（「ふるさと松山の偉人たち（後期展）」）において初公開します。